

## 第1回JALA 市民公開講座 有害事象分科会

2019・3・24  
ステーションカンファレンス東京

## わが国の無痛分娩の実情

2017年  
日本産婦人科医会「分娩に関する調査」結果より

### 現状における具体的な実施状況の把握

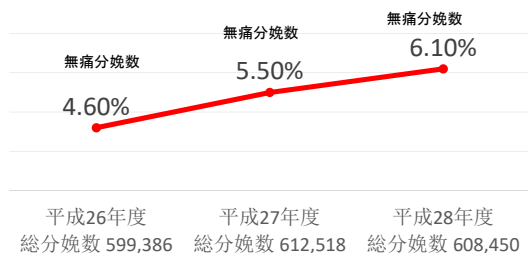
- どこで どれくらい 無痛分娩が行われているのか？
- だれが無痛分娩を管理しているのか？
- どれくらいヒヤリ・ハット事例はあるのか？
- 産科医が今抱えている問題は？
- 無痛分娩について どう考えているのか？

### 「分娩に関する調査」概要

- 期 間 2017年6月9日～30日
- 対 象 分娩取扱施設 2,391施設  
(病院 1,044施設、診療所 1,347施設)
- 施設数 1,423 (回収率59.5%)
- 総分娩数 1,820,354 (3年間; H26-28)

**6.1%**

総分娩数に占める無痛分娩数の割合



日本産婦人科医会「分娩に関する調査」2017. 6

### 総分娩数に占める □□□□□の割合

平成26～27年度

**7.7%**

緊急帝王切開

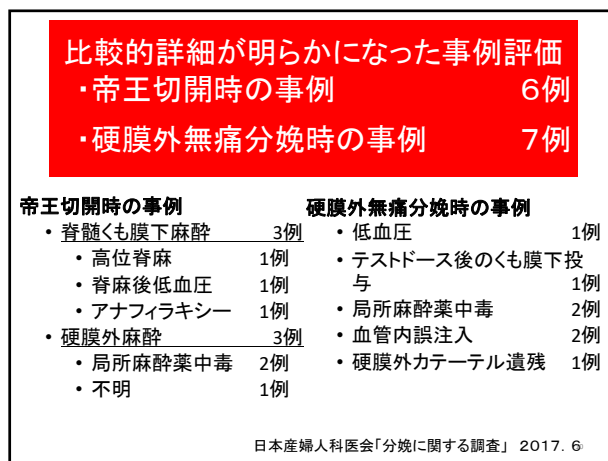
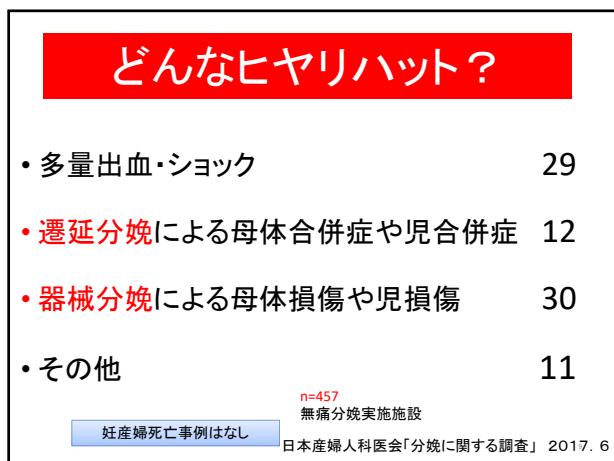
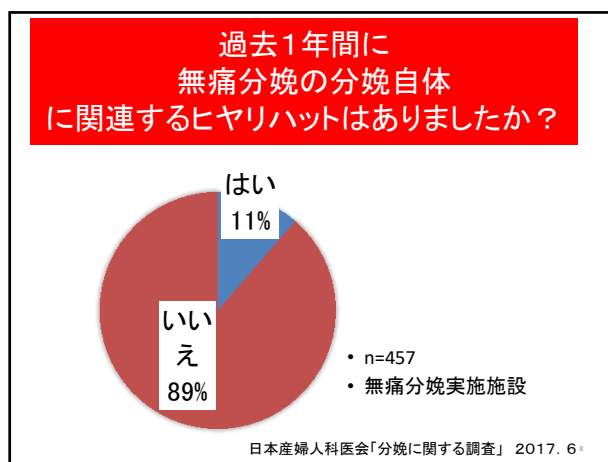
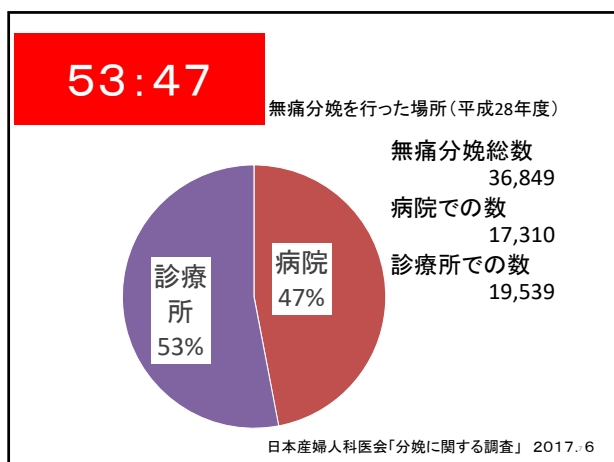
**2.3%**

帰省分娩(里帰り分娩)

**0.2%**

未受診(妊婦健康診査を受けない妊婦)

日本産婦人科医会「分娩に関する調査」2017. 6

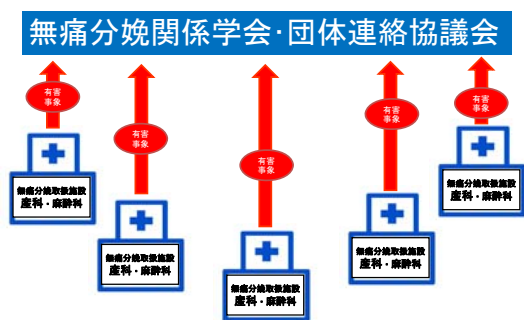


無痛分娩の安全性向上のための  
インシデント・アクシデントの  
収集・分析・共有

2018年3月29日  
無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言より

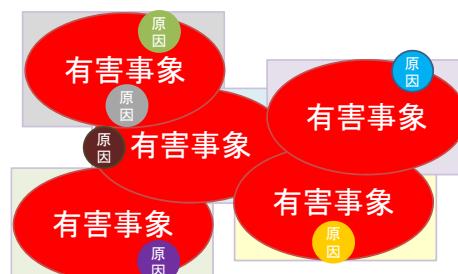


## 収 集



## 有害事象

個々の有害事象ごとに、  
その原因や背景要因は様々



## 分 析

無痛分娩関係学会・団体連絡協議会に  
関わる専門家による分析



## 情報の共有・公開

安全性の向上！



## JALA有害事象分科会の活動

安全性の向上のために

### ① 収集:

無痛分娩を実施している施設の無痛分娩麻酔管理(担当)者から無痛分娩に直接係る有害事象(全脊麻、局所麻酔剤中毒、大量投与、等)を、調査票を用いて、無痛分娩関係学会・団体連絡協議会に報告する

### ② 分析:

匿名化された調査票の内容を、無痛分娩に関わる専門家による分析・検証・評価を行う

### ③ 共有:

分析された症例について、統計的処理をして、無痛分娩関係学会・団体連絡協議会で共有し、情報を公開する。

## 有害事象分科会メンバー

産婦人科医	4名
麻酔科医	3名
助産師	1名



## 無痛分娩症例での発生事象

- (麻酔中の事象)
  - 心拍、呼吸、血圧、意識等
- (産後明らかになった母体事象)
  - 硬膜外血腫、神経障害等
- (産科的事象)
  - 羊水塞栓症、会陰裂傷、産後過多出血等
- (母体予後に関する事象)
  - 母体死亡、母体低酸素脳症、神経障害等
- (児の事象)
  - 死産、新生児死亡、後遺障害等
- (その他の事象)

## 調査票の項目

- 患者に関すること(年齢、身長体重等)
- 施設に関すること(健診施設、分娩施設、担当医等)
- 麻酔管理(麻酔方法等)
- 分娩管理(分娩様式、分娩経過等)
- 有害事象に関する具体的な経過
- 具体的な分娩経過



## 「無痛分娩有害事象収集分析事業」パイロットスタディ(1)

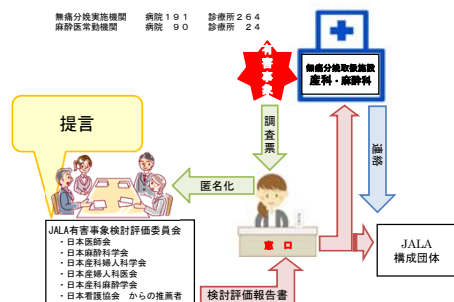
- 調査対象
  - 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会に関わる比較的無痛分娩件数の多い13施設
- 報告期間
  - 2018年9月1日～12月31日
- 報告対象
  - 無痛分娩症例での発生事象に関わる症例を報告

## 「無痛分娩有害事象収集分析事業」パイロットスタディ(2)

- 回答
  - 11施設
- 事例報告数
  - 15件
- 症例検討
  - 2019年4月以降 開始予定



## 無痛分娩有害事象発症時の報告票および分析・評価・報告書の流れ(案)



## 有害事象の報告対象(案)

- 全脊麻
  - 麻酔薬中毒
  - その他
    - 硬膜下血腫、硬膜外血腫、それ以外の神経障害、アナフィラキシー、全脊麻や麻酔薬中毒によらない低酸素脳症など
- > 妊産婦死亡は、日本産婦人科医学会の事業と重複報告となるため医会会員からの有害事象としての報告対象とせず、「妊産婦死亡報告事業」への報告とし、検討評価については、無痛分娩に係る妊産婦死亡事例検討の流れ(案)に準ずる。

